

資格検定 NEWS

互いの違いを尊重する

【ハンス・クリスチャン・アンデルセン】少年時代、彼は文字を読むことが苦手だった。しかし、後に世界でもっとも読み継がれているたくさんのお話を創作した。デンマークの詩人・童話作家で、『みにくいあひるの子』『人魚姫』『はだかの王様』などが世界中で親しまれている。

【アルバート・アインシュタイン】彼は4歳まで話さなかった。勉強も苦手で、友達ともなじまず、スポーツにも無関心、暗記ができない。質問してもすぐ答えず、答えても口の中で何度も繰り返している。大学受験にも失敗。後に彼は相対性理論の基礎を築き上げたその業績から、20世紀最高の理論物理学者と言われている。1921年にノーベル物理学賞を受賞。

【トーマス・エジソン】小学校に入学するも、教師と相性があわず中退した。小学校当時、算数の授業中には「1+1=2」と教えられても理解することができず、「1個の粘土と1個の粘土を合わせたら、大きな1個の粘土なのになぜ2個なの？」と質問したり、国語の授業中にも「A(エー)はどうしてP(ピー)と呼ばないの？」と質問するといった具合で、授業中には事あるごとに「なぜ？」を連発していたという。電話機、蓄音機、電球、発電機などを発明し、「発明王」と呼ばれる。

【黒柳徹子】「森」という文字を書こうとしても位置関係がとれず「木木木」と書いてしまう。最初に登校していた私立小学校を退学になった。大人になってからは、30年以上続く日本初のトーク番組『徹子の部屋』の司会や、累計750万部を誇る戦後最大のベストセラー『窓際のトットちゃん』の著者として知られる。

【トム・クルーズ】12歳のときに両親が離婚したため、経済的に苦しい生活を送った。学生時代はスポーツに熱中するが挫折し、その後、演劇に関心をもつようになった。1986年の『トップガン』の世界的大ヒットでトップスターの仲間入りを果たした。12歳までに転校7回、転校先でのいじめ、父の暴力、貧困、両親の離婚、高校時代アキレス腱の損傷により大好きなレスリングをやめる。難読症である。「子どもの頃はすごく孤独でさびしかったよ。なぜかって？字が読めないから周りの連中にかかわれ、いじめられていたんだよ。だから子どもの頃の私はすごい内気で静かな

少年だったよ。」「一生懸命、文章を読んだけど、読み終わった後にはほとんど何も記憶に残らないんだ。自分に失望し不安を常に感じ、常にストレスを感じていたんだ。字が読めない自分を恥じていたしね。

<大阪府作成資料を一部引用改変>

空気を読む

築地から豊洲市場への移転理由を説明するため、東京都がホームページに載せている資料が何とも痛々しい。少し前まで土壌汚染対策を示す地下の構造のイメージ図を「調査中」の文字で隠していた。「疑問解消BOOK」とのタイトルだが、これでは「疑問噴出BOOK」だ。

ナゾの地下空間はなぜ生まれたのか。肝心の部分にもやががかかっている。盛り土でなく地下空間という方針は段階的に固まり、「いつ誰が決めた」かは、はっきり分らないそうだ。

「空気」や「流れ」で進んでいったと小池百合子知事は言う。責任をもって判断するのではなく、空気を読み、流れに身を任せるだけ。そんな役人が、巨大な都庁のあちこちにいるのかと心配になる。

疑問は東京五輪・パラリンピックの経費の見積もりにも及ぶ。組織委員会も含めた全体像を調べた都のチームは「社長も財務部長もいない状態」だと言い切った。責任者不在でいつのまにかコストがふくらみ、都民に請求書を回されてはたまらない。

あのとき意見を言っておけばよかったと後悔している都職員もいるかもしれない。自分を殺して空気を読むことで、組織が深く傷つき信頼が損なわれる。他人事ではない話だ。

<朝日新聞記事を一部引用改変>

